

若手音楽家育成事業
プラットフォームコインコンサート
デュオ・ミスカラーレ「交差するいろどり(彩)」

2024年5月29日(水)19:00 開演
穂の国とよはし芸術劇場 PLAT アートスペース

出演:いい ゆひな(伊井夕雛)、まつやま みづほ(松山美津穂)

【コンサートプログラム】

1. ディジーガレスピーの「マンテカ」によるパラフレーズ Op.129

カプースチン 作曲

トランペット奏者であったジャズミュージシャン、ディジーガレスピーの作曲したジャズの名曲「マンテカ組曲」を元にカプースチンが作曲した2台ピアノのための曲です。マンテカとはスペイン語で「ラード」の意で、ジャズには黒人の間でご馳走だった油を扱う曲がこの作品を含めいくつかあります。原曲の賑やかさや哀愁、リズム感を忠実に再現しながら中間部の即興はカプースチンの腕が光ります。2人の音域は重複しておらず、1台のピアノでも演奏することができます。

2. スカラムーシュ Op.165b より I. ヴィフ、III. ブラジルの女

ミヨー 作曲

「スカラムーシュ」とはコンメディア・デラルテという古いイタリアの即興劇に登場する道化役者のこと、またパリにある子供向け劇場の名前でもあります。この組曲は書き下ろしではなく、彼がそれ以前に演劇のBGMとして書いた音楽を2台ピアノのために改作したものです。今回演奏する2曲は、モリエールの喜劇によるこどものためのドラマ「空とぶお医者さん」で書いた音楽が基となっています。彼が滞在していたブラジルの音楽の影響が色濃く表れている作品です。

I. ヴィフ

Vif(ヴィフ)とは「元気に、活発に」という意味です。主旋律が二人の奏者を目まぐるしく行き来する華やかな作品です。第2主題ではサンバのリズムが用いられています。

III. ブラジルの女

この曲はいきなり両ピアノによる激しいサンバのリズムではじまります。中間部では和音による旋律とシンコペーションによるリズムが目まぐるしくかけあいます。

3. 子供の情景より トロイメライ Op.15-7

シューマン 作曲

組曲「子供の情景」に収録されているシューマンの名曲です。子供の情景は当時婚約していたクララから送られた手紙の「時々あなたは子供に思えます」という言葉の余韻の中で作曲されたといえます。トロイメライは翻訳すると「夢想にふけること」といった意味で、タイトルの通り、全体に穏やかで夢見心地なメロディが流れます。

4. 5つの小品(樹木の組曲)より 樅の木 Op.75-5

シベリウス 作曲

「樅の木」は各曲に樹の名前がつけられた「5つのピアノ小品」の第5曲です。シベリウスの故郷フィンランドでは、1年を通じて緑の樅の木は永遠の生と死の象徴とされています。長く暗い冬を耐える孤独な樅と吹きすさぶ北風を思わせる、もの寂しげなメロディが印象的です。全体に即興的に演奏されます。

5. ピアノソナタ第1番 Op.39「ソナタファンタジー」より 第4楽章

カプースチン 作曲

この曲はN.カプースチンによって作曲された全4楽章からなるソナタです。それぞれの楽章が異なるジャズスタイルで構成されており、全曲を演奏するときには楽章間なく続けて演奏されます。本日演奏する4楽章はこのソナタの中で唯一本格的なソナタ形式で作曲されています。即興的なイントロから始まり、超絶技巧やジャズの影響を色濃く受けたリズム、ウォーキングベースなどジャズとクラシックの要素を行き来しながら、華やかにフィナーレに向かいます。

6. いつか王子様が

チャーチル 作曲

鈴木奈美 編曲

「いつか王子様が」は、ディズニーのアニメ映画『白雪姫』の挿入歌です。映画の中では白雪姫の声優を担当したアドリアナ・カルロッチェによって歌われました。後にジャズピアニストのジョン・ウィリアムズがこの曲をアルバムに収録するなど、ジャズ・スタンダードとしても愛されている作品です。

7. くまのプーさん

ショーマン 作曲

川田千春 編曲

くまのプーさんはもともと児童小説で、のちにディズニーによってくまのプーさんシリーズのアニメーションが作られました。プーさんは食いしんぼうではちみつが大好きなくまのぬいぐるみで、老若男女問わず世界中から愛されているキャラクターの一つです。

8. シンフォニエッタ Op.49

カプースチン 作曲

第一楽章 Overture(序曲)

シンフォニエッタは元々オーケストラのために書かれており、後にカプースチン自身によって連弾に編曲されています。I は終始生き生きとした速いテンポで演奏されます。曲全体を通して第 1 曲目らしい希望に満ちた前向きな明るさとはつつさがある作品です。

第二楽章 Slow Waltz(スローワルツ)

タイトルの通り、ゆっくりと演奏されるジャズワルツです。調性と無調性の間をたゆたいながら、メランコリックなメロディが奏でられます。

第三楽章 Intermezzo(間奏曲)

バスビートで絶え間なく畳み掛ける疾走感あるパッセージと、哀愁をもつてうたわれるパッセージに別れており、全体に静と動がハッキリしていながら終始速いテンポで演奏されています。他の楽章より全体にメロディの音域が低く、カプースチンの無骨さを感じることができます。

第四楽章 Rondo(ロンド)

作品のラストにふさわしい、素早いパッセージの連続する華やかな楽曲です。曲中に 4 回登場する主要テーマは毎回わずかにリズムや音が異なり、即興的な要素を感じることができます。典型的なロンド形式で、クラシックの古典的手法で書かれています。ドラム、ベースギターを模したバスでビートを刻みながら最後は畳み掛けるように速度を上げてゆき、鮮やかに幕をとじます。

【出演者プロフィール】

デュオ・ミスコラーレ

2016年に結成された、松山美津穂(プリモ)、伊井夕雛(セコンド)によるピアノデュオユニット。2022年より本格的に演奏活動を開始。2023年全日本ピアノコンクール 連弾 U:30 の部 金賞。第1回スペシャルヴェニユ国際音楽コンクール Winner of 2024 受賞。10月にニューヨーク カーネギーホールでの入賞者コンサートに出演予定。現在は愛知県を中心に精力的に演奏活動を行っている。

いい ゆひな(伊井夕雛)

愛知県東郷町出身。3歳よりピアノを始め、愛知県立明和高等学校音楽科を経て、愛知県立芸術大学音楽学部ピアノコースを卒業。これまでに伊井光子、杉浦日出夫、永野美佐子、米川幸余、北住淳の各氏に師事。第15回ショパン国際ピアノコンクール IN ASIA アジア大会入選、第27回日本クラシックコンクール全国大会入選、第45回ピティナピアノコンペティション連弾中級 A 全国大会ベスト14賞。現在は後進の育成にあたりながら、愛知県を中心に演奏活動を行っている。

まつやま みづほ(松山美津穂)

愛知県新城市出身。4歳よりピアノを始め、愛知県立明和高等学校音楽科を経て、愛知県立芸術大学音楽学部ピアノコースを卒業。これまでに井辺有美、犬塚裕加里、本田聖嗣、杉浦日出夫、廣澤純子、永野美佐子、米川幸余、内本久美の各氏に師事。第14回大阪国際コンクールピアノ部門 Age-H部門アブニール賞。日本クラシックコンクールピアノ部門高校女子の部4位。ジュニアオリジナルコンサート in 愛知 2007、JOC シティコンサート in 三河 2011 に出演。2024年7月、オーディションを経てザルツブルク夏期国際音楽アカデミー2024に参加予定。現在は愛知県を中心にソロ、伴奏問わず多方面で活動している。

【スタッフ】

譜めぐり=たけだ えりこ(竹田江梨子)、にいつ くらら(新津くらら)

舞台=ふるの まさゆき(古野雅之)

音響=すぎやま ちひろ(杉山智尋)

照明=いけだ としはる(池田俊晴)

制作=いしだ あきこ(石田晶子)、ながさか なほみ(長坂奈保美)、かが ちなつ(加賀茅捺)

票券=たかだ しょうこ(高田装子)

主催:公益財団法人豊橋文化振興財団

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)|独立行政法人日本芸術文化振興会

企画制作:穂の国とよはし芸術劇場 PLAT